

1. 件名：福島第一原子力発電所における環境線量低減対策に係る面談
2. 日時：令和4年11月22日（火）13：30～14：40
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者：
原子力規制庁 原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
横山係長、高木係長
東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）
福島第一廃炉推進カンパニー 担当2名
5. 要旨：
 - 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）より、福島第一原子力発電所における環境線量低減対策について、資料に基づき主に以下の説明があった。
 - 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果
 - ✓ 有意な変動は確認されなかった。
 - タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況
 - ✓ 有意な変動は確認されなかった。
 - 地下水観測孔 No. 2-5 における全ベータ濃度の上昇について
 - ✓ 前回面談時の説明と同様に地下水No. 2-5の全β測定値で高止まりが見られるが、有意な変動は確認されなかった。
 - ✓ 配管トレンチ近傍の測定ポイントNo. 1-6の全β測定値が最も高く推移しているが、海水配管トレンチなど周辺構造物を踏まえると、No. 2-5の全β測定値がNo. 1-6の全β測定値を大きく超える可能性は低いと考えている。
 - ✓ 港湾内の海水の全β測定値に変動が見られないため、No. 2-5の全β測定値は高止まりしているが、周辺環境への影響はないと判断していること。
 - 【参考】多核種除去設備等処理水の取扱いに関する海域モニタリング計画について
 - ✓ 有意な変動は確認されなかった。
 - 原子力規制庁は、上記説明内容について確認し、東京電力に対し以下の点についてコメントした。
 - ✓ 地下水No. 2-5の全β測定値が高い数値であることを踏まえ、全β測定における試料採取や前処理などの過程について、次回面談時に説明すること。
 - ✓ 次回面談時に、11月18日の循環注水冷却・滞留水等に係る定例会時に説明のあった1号機RCW熱交換器入口ヘッダ配管内滞留ガスパージに伴う敷地境界における実効線量評価について、その詳細を説明すること。
 - 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. その他

資料：

- 環境線量低減対策スケジュール
- タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について
- 地下水観測孔 No. 2-5 における全ベータ濃度の上昇について
- 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2022年10月）
- 別紙 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2022年10月
評価分（詳細データ）
- 空气中放射性物質濃度の分析結果（1～4号機）
- 多核種除去設備等処理水の取扱いに関する海域モニタリングの状況について

以上